



子ども総合センターだより



あした

明日もしあわせ通信 (第67号) 令和4年1月号



迎春 2022年のはじまりに

新変異株のオミクロン株

も気になるところですが、今年こそはよい年となりますように・・・との強い思いで新年を迎えられた方が多くおられたのではないのでしょうか？

去年はコロナで始まりコロナで終わった一年でした。「会社へは来るなど上司行くと妻」「お父さんマスクも会話もよくずれる」「抱き上げた孫が一言密ですよ」「リモートで便利なことば 聞こえません」「嫁の呼吸 五感で感じろ！全集中!!!」。
＜サラリーマン川柳2021（第一生命）より＞

そんな中、開催へ賛否両論あった東京オリンピック、パラリンピック。選手の皆さんの活躍は見事で、その様子を見るだけで勇気と感動をもらいました。また、ボランティアの皆さんのおもてなしの心は海外メディアでも広く紹介され、高い評価を得たように感じます。

国の教育振興計画のスローガンは、生涯にわたる

一人一人の「可能性」と

「チャンス」を最大化すること。人生100年時代の到来により、今後生涯に2つ、3つの仕事をもつようになると言われています。人々の働き方やライフスタイルの変化に広がりが見られる社会へとつながっていきます。「誰もが安心して生活できる環境を構築する」とは、伊予市の未来戦略プロジェクトの柱の一つ。互いに支え合える関係、地域で見守りができる体制づくりに重点がおかれています。

今年は寅年。チャレンジ精神を発揮して、関係機関と連携し、子ども達が安心して生活できる環境づくりに向けた取り組みを推進していきたいと思っています。今年もよろしくお願いたします。(K・H)



～はばたき教室～

～親に受け止めてもらえる安心感～

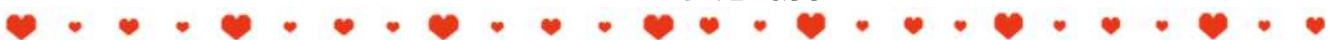


あけましておめでとうございます。昨年、子どもたちはたくさんの不安をかかえながらも毎日頑張れました。「頑張れたのはなぜ？」と、子どもに尋ねると、家庭の存在が大きく、自分を受け止めてくれる親の言葉や態度からでした。学校を休んでいるとき。母親から「何がしたいの？」と聞かれ、その言葉は自分を尊重してくれたと感じ、嬉しかったそうです。

学校に行っていない自分は、したいことをしてはいけないと思っていたそうですが、親は、黙って自分がしたいことや行きたいところに連れて行ってくれたそうです。それが自分の気分転換にもなり、外に出かけるきっかけにもつながったのです。

ありのままの自分を受け止めてくれる家族がいることで、自分の心の安定と安心感につながったのです。「学校に行っていないあなたも大事なあなた」だという事が子どもに伝わると、安心して動き出します。子どもを信じ、日常をどう過ごすかを一緒に考えてみてはいかがでしょうか。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

はばたきのTEL 089-989-5021 直通的携帯 080-2974-4581





初心忘るべからず



将棋の第92期棋聖戦において、渡辺 明名人を相手に3連勝し、初のタイトル防衛を果たした後に藤井 聡太棋聖は、色紙に『初心』と書いて次のように述べました。『防衛という結果に満足することなく、初心に戻って前を向いていきたい。』

この決意を聞いて思い出したのは『初心忘るべからず』という約600年前の能楽の大成者である世阿弥(ぜあみ)の言葉でした。その意味は、「物を学ぶに際して重要なことは、学び始めた頃の心を忘れないことである。」ということです。

藤井棋聖は、その後『王位』のタイトルを防衛し、さらに『叡王』のタイトルを奪取し、史上

最年少の19歳1か月での三冠獲得者となり、従来の記録(羽生善治九段の22歳3か月)を大幅に更新しました。その後さらに『竜王』のタイトルを獲得し、最年少の四冠獲得者(19歳3か月、同22歳9か月)となり、今後『王将』への挑戦も決定したため、順調に勝ち進めば年度内に五冠獲得まで視野に入ってきます。

『将棋の神様』に愛された少年が今は青年となり、これからどのような活躍を続けていくか、昇龍の如くどこまで昇りつめていくか楽しみに見守りたいと思います。



以上年の初めの明るい話題として「ことわざシリーズ④」でした。(E・F)

《センター長のつぶやき》

2022年あけましておめでとうございます。

2年近くコロナ禍の中で過ごし、オリンピック・パラリンピックも遠くに感じる。東京のコロナ感染者は8人(R3.11.29)。今年の正月は2年ぶりに娘のいる横浜で箱根駅伝も見ていることだろう。

一年の計は元旦にあり。元旦にはだれしも、新たな決意や目標をたてる。半年も前のこと、中学の同級生が「毎日が元旦の気持ちなんよ。」「一日一日が大切なんよ」と言っていた。毎日が元旦の決意で365日頑張れば、どれだけのことができるだろうかと考えてしまった。「また会い行こうわい」と言って電話を切ったが彼の言葉の意味を知ることとなった。



先日奥様から喪中のはがきが届いた。68歳若すぎるやろ！中学のあの教室で、彼と一緒に学んだ、国語の教科書にあった短歌が思い出された。

「めさむれば命ありけり露ふふむ
朝山さくらぬかにふれみて」

目が覚めた、命がある。今日も生きている。ありがたい。そんな気持ちで、この1年、彼の分まで、一日一日を大切に生きていこうと思う。

(DOIG)

《発達支援巡回相談》

やる気スイッチ

ある園でのことです。A君がある日突然自分の名前をフルネームで言えるようになりました。担任の先生がびっくりしてお母さんに聞きました。お母さんはどうして急に言えるようになったかは分からないのですが、本人が「ぼく、お名前言うよ。」と宣言したそうです。その日から、小声で呪文のようにぶつぶつと名前を唱えていました。夜寝る前までそれは続き、朝起きるとはっきりと名前を言えるようになっていました。



園ではA君はいつになったら自分の名前が言えるようになるのか心配をしていたそうです。突然言えるようになりびっくり！彼のやる気スイッチはどこにあったのでしょうか?!逆にスイッチが入ればできるようになる子どもの力はすごいですね。

新年を迎え、やる気スイッチを探してスイッチオン！したいものです。(A)

伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

☎989-6226

伊予市総合保健福祉センター2階

